

市民アンケートの結果を公表します



市では、「第6次鹿角市総合計画」において、「笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角」を将来都市像として定め、その実現を目指しています。

市民アンケートは、市が導入している行政評価制度の外部評価として、施策の効果と需要を調査・把握するほか、市民の意識や意見等を集約し、今後の施策推進に活用することを目的としています。

満18歳から74歳までの市民700人の方に配付し、513人の方（回収率73・3％）から回答をいただきました。ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

市民アンケートの詳細な結果は、市ホームページで公開しているほか、各図書館でも閲覧できます。

子育て支援の満足度

52.8%

前年より7・8ポイント増加し、特に子育て世代である30歳未満の年代において、前年を21・9ポイント上回る結果となりました。ファミリー・サポート・センターや子育て世代包括支援センターの開設によって、妊娠から子育てまで安心して支援を受けられることや、昨年10月から保育料の無償化制度にあわせ、助成を拡充したことにより、満足度が上昇したものと考えられます。



前年より4・2ポイント減少しましたが、不便を感じる理由として、「バスや鉄道の運行本数が少ない」「バス停や駅まで遠い」といった意見が多く、乗り換えの不便さも寄せられています。利用者の減少に伴い運行本数を削減してきた経緯もあり、増便は難しい状況にあります。予約型デマンド運行や地域主体の乗合交通の取り組みを進めながら、最寄りのバス停までの距離が遠い方々の利便性向上を図ることが必要と捉えています。

また、学校再編や交通需要に基づく路線網の見直しなどにより、運行の効率化を図るとともに、公共交通を必要とする方への支援制度の拡充や啓発活動により市民の関心を高め、地域に必要な公共交通を維持していきます。

公共交通に不便を感じる割合

18.1%

インターネット利用者の割合

74.3%

前年を3・6ポイント下回りましたが、普及率は引き続き高い水準を維持しています。

これまで普及率が高かった50代以下の年代に加え、60代以上もスマートフォン利用が進み、幅広い年代でインターネット利用が浸透しています。

利用機器は、各年代でスマートフォン利用が最も多く、特に50代以上で前年より大幅に増加していることから、年代を問わずスマートフォンで気軽にインターネットを利用していることがうかがえます。



週1回以上の頻度で運動する割合

52.2%

前年を2・0ポイント上回る結果となりました。平成25年度以降、継続して50以上を保っていますが、年代別では30代や40代で3ポイントほど改善したものの、依然として30代から50代の働き盛り世代の割合が50%を下回っている状況です。チャレンジデーやスポーツイベントを継続して開催し、今後も多くの市民がスポーツに親しめるよう、啓発に努めることが必要です。

社会活動・地域活動の参加割合

60.0%

前年を5・2ポイント上回る結果となりました。年代別では、30歳未満が25・7%で特に低くなっていますが、40代以上の参加率は各年代で6割を超え、本市の地域活動の担い手として活躍していることがうかがえます。

「の整備」が34・1%となり、意見が分かれる結果となりました。

鹿角に愛着を感じる割合

68.4%

同じ水準となっています。満足度向上の背景には、子育て支援や健康づくりなどの施策のほか、鹿角花輪駅前広場や市営住宅の整備、「あんたらあ」の改修など、計画的な社会基盤の整備に対する評価が反映されたものと考えられます。

また、「平等である」と回答した男女の割合を比較すると、男性は32・3％、女性は22・8％と、前年より差は縮小したものの、依然として、男女間の意識に格差が生じています。

1年間で芸術鑑賞に親しんだ割合

39.0%

前年を2・0ポイント下回りました。文化の社交館コモッセで芸術鑑賞をした割合は69・0％で、昨年より1・5ポイント増加していることから、鑑賞機会としてコモッセが利用されていることがうかがえます。

また、コモッセの文化ホールで鑑賞した人を年代別にみると、70歳以上が85・7％と最も多く、

昨年を5・0ポイント下回る結果となりました。どの年代もおおむね50％から60％の利用がありましたが、30歳未満が11・1ポイント増加した一方で、60代では12・6ポイント減少しており、年代によって増減のばらつきが見られます。

また、「一度も利用しなかった理由として、「用事がない」「興味のあるイベントがない」という声が多かったことから、これまで足を運ぶ機会がなかった方に立ち寄ってもらえるような催しやさまざまな利用方法を知ってもらう取り組みが必要です。

学校統合がやむを得ないと考える割合

74.7%

望ましい学校規模に統合することについて、「やむを得ない」との回答が74・7％という結果になりました。小規模でのきめ細かい指導などを期待するよりも、複式学級などのデメリットを回避すべきという意向が反映されたものと考えられます。

また、再編方法については「近くの学校同士の統合」が39・0％、「小中一貫校、義務教育学校と

住みぐちに満足している割合

53.8%

前年より10・7ポイント改善し、すべての年代で前年を上回りました。特に30歳未満で19・2ポイント、60代で11・7ポイント伸びており、男女比は、男性が53・5％、女性が53・2％

愛着はふるさとへの誇りを生み、地域を盛り上げる雰囲気醸成や魅力的な地域づくりの礎となることから、引き続き、鹿角ブランドの取り組みを強化し、愛着をさらに高めていきます。